



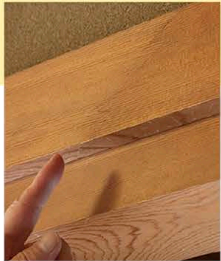
高瀬千津子さんに伺いました



離れの付書院 長押の継ぎ目

離れの付書院といえば、松葉継ぎ模様の欄間障子ですが、その真上の長押もご覧ください。稲妻模様の継ぎ目にお気づきでしょうか。本来、隠したいはずの継ぎ目が、上座の目立つ場所にあるなんて!と、初めて見た時はびっくり。

棟梁のすご腕と心意気を見せつけられた気がして鳥肌が立ちました。



◀離れにはほかにもいくつか継ぎ目があり、いずれも稲妻模様です。こちらは廊下床の継ぎ目。

西脇まちなか交流館を拠点としたまちづくり town management organization「TMO」 親しみを込めて「トモ」と読み、その活動をお伝えします

TMO NEWS

旧来住家住宅の ツウな見どころ5選

へその休日、建築探訪へ

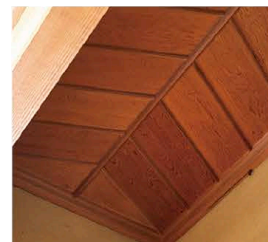
旧来住家住宅の一般公開が始まって、来年5月で20年になります。そこで今回、ボランティアガイドさんに「ツウな見どころ」を伺いました。すると、広報部員も知らなかったネタが次々と……! 初来館の人はもちろん常連さんも楽しめる「見どころ5選」をご紹介します。(は)



吉川 徹さんに伺いました

見えないところに 見栄を張る天井

見えないところに見栄を張る、そんな播州人の気質を感じさせる見どころがあります。それは3つの小さな天井。見上げるときはくれぐれも首を痛めないようにご注意くださいね。



母屋の床天井

◀矢筈張りになっており、立ち位置が右端と左端とで天井の見え方が変化します。まるでトリックアート。



母屋の仏壇天井

◀仏さまの後光を表した放射状のデザインが施されています。



離れの床脇天井

◀カッティングを施した屋久杉の薄板を重ねることで、立体的な模様を生み出しています。



時本洋子さんに伺いました



離れの欄間彫刻「蝙蝠」

コウモリは、中国では福を呼ぶ縁起物とされていて、「長寿」「富貴」「康寧」「好徳」「善終」の五福を表す五匹が描かれています。何より、表情がとっても可愛らしいんですよ。



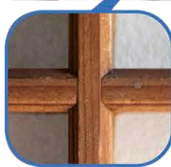
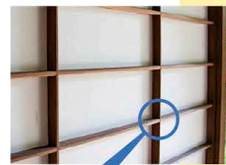
◀樹齢数百年の古木「黒柿」を使用。白と黒の模様が、羽の模様のように見えてきれいです。



絹川保子さんに伺いました

面取り組手腰

母屋の座敷は細部まで丁寧な造りです。障子は、組子の縁を削った「面取り組手腰」。高度な職人技を要するもので、面取りしていない「素組」よりも繊細で美しい仕上がりです。



※あいに夏季は障子を外しております。秋の初めに建具替えをしましたら(9月中旬頃)ぜひご覧ください。

竹のような銅製雨樋

◀こちら、何に見えますでしょうか? 色といい、形といい、まさに「竹」のよう…。実は、竹を模した雨樋なんです。

素材は銅です。酸化による経年変化で「緑青(ろくしょう)」と呼ばれる青錆が出ることを見越して用いられたと思われます。この雨樋があるのは、降りつくばいの脇。竹林の清涼な趣きをこの場所に表現したかったのでしょうか。



◀雨樋の足元には、銅ゴケの一種であるホンモンジゴケが、きめ細かなベルベットのように。



笹倉美樹さんに伺いました

